

教育目標	すすんで学び 心身ともに健康で 思いやりのある人になる
めざす学校像：	①生徒の人格が尊重される学校 ②豊かな人間関係が育む学校 ③生徒の未来を見据えた学力を育む学校
めざす生徒像：	「自己表現し、認め合える生徒」(令和4年度改訂)
めざす教師像：	①生徒の人格と多様性を尊重する教師 ②より良い集団をつくり個々を育てる教師 ③ 授業を通して生徒の未来を明るくする教師

項目	中期目標	短期目標	具体的方策	努力指標	努力指標	成果指標	成果指標	改善策	学校関係者評価記入欄	
				(中間)	(最終)	(中間)	(最終)			
学習指導	1 基礎	既習事項を次の学習や生活に活かしていく視点で、基礎的・基本的事項の習得を図る。	①授業のユニバーサルデザイン化の標準化とタブレットPC,ICT機器活用場面を開発する。 ②生徒の側に立ったサポート教室の活用を行う。 ③オンライン学習の個別活用を行う。	3.1	<12月集計	3 81.3%	<12月集計	◎ 再度、具体的方策を見直し、基礎的・基本的事項の習得を図る取り組みを継続していくとともに、生徒・保護者に対しての説明もていねいに行っていく。 ◎ 今後も、主体的・対話的で深い学びが実現できるよう、言語活動の充実を図るなど、指導技術の改善を図っていく。	・タブレット等を使った視覚的にわかりやすい授業が多かった。また、対話的活動が英語をはじめ、いろいろな教科で頻繁に行われており、一方的な指導ではなく生徒が参加できていてよかった。 ・学校評価の結果と授業はつながっている。教員の意識をさらに高めて、生徒にとっての目標となる評価となるように研鑽を続けてほしい。 ・生徒の興味を引くような内容や主体的に取り組める活動をしている授業が、さらに増えていくとよいと感じた。	
	2 活用	主体的・対話的で深い学びを標準とし、ICTを高度に活用した指導技術の改善を図る。	①授業、校内研修、保護者会等において各教科の見方・考え方の例を適切に発信・共有する。 ②国分寺学の構築および目指す生徒像にせまるカリキュラム・マネジメントを進める。	3.3	<12月集計	3 88.1%	<12月集計	◎ 今後も、年度当初に年間指導計画・評価計画の家庭配布を行い、全教科毎の評価材料について年度当初に示し授業での説明も行うなど、ていねいな対応を続けていく。 ◎ 年間指導・評価計画に基づき、多様な価値観を認め合い、考え議論する授業を行う。いじめ防止を含め、様々な学校生活との関連を図り、実践へとつなげていく。	・現在の学力の向上は、小学校から引き続いた指導の改善による成果である。 ・タブレット使用について、相手の表情を見ながらの「対話」が減ってしまうことを危惧している。想像力と対話の中で力を付けていく必要がある。	
	3 評価	生徒の努力と成果に対する、適正な評価・評定の実施。	公的学力調査結果などを踏まえ、適切な評価基準を定める。	①教科部会、各研究会での研究を推進する。 ②3観点による評価の説明、年間指導計画・評価計画、評価材料配点の家庭配布を行う。また、授業での説明も行う。	3.3	<12月集計	3 83.2%	<12月集計	◎ 今後も、年度当初に年間指導計画・評価計画の家庭配布を行い、全教科毎の評価材料について年度当初に示し授業での説明も行うなど、ていねいな対応を続けていく。 ◎ 年間指導・評価計画に基づき、多様な価値観を認め合い、考え議論する授業を行う。いじめ防止を含め、様々な学校生活との関連を図り、実践へとつなげていく。	・生徒の興味を引くような内容や主体的に取り組める活動をしている授業が、さらに増えていくとよいと感じた。 ・現在の学力の向上は、小学校から引き続いた指導の改善による成果である。 ・タブレット使用について、相手の表情を見ながらの「対話」が減ってしまうことを危惧している。想像力と対話の中で力を付けていく必要がある。
	4 道徳	特別の教科 道徳を適正に実施する。指導方法と評価方法を刷新する。	考え議論する道徳授業への質的転換への試みを図る。	①年間指導・評価計画に基づき、多様な価値観を認め合い、考え議論する授業を実践する。 ②いじめ防止を含め、様々な学校生活との関連を図り、実践へとつなげる。	3.2	<12月集計	3 89.3%	<12月集計	◎ 今後も、年度当初に年間指導計画・評価計画の家庭配布を行い、全教科毎の評価材料について年度当初に示し授業での説明も行うなど、ていねいな対応を続けていく。 ◎ 年間指導・評価計画に基づき、多様な価値観を認め合い、考え議論する授業を行う。いじめ防止を含め、様々な学校生活との関連を図り、実践へとつなげていく。	・生徒の興味を引くような内容や主体的に取り組める活動をしている授業が、さらに増えていくとよいと感じた。 ・現在の学力の向上は、小学校から引き続いた指導の改善による成果である。 ・タブレット使用について、相手の表情を見ながらの「対話」が減ってしまうことを危惧している。想像力と対話の中で力を付けていく必要がある。
生活指導・進路指導	5 人権	生徒の人格を尊重し、個性を伸ばしながら、社会的資質や行動力を高める。	人権尊重を基盤とし、生徒一人一人の存在と多様性が尊重される集団を育む。 ①授業や行事等の教育活動の中で、すべての人はかけがえのない存在であり、すべての人の尊厳を守ろうとする意識と行動力を育む。 ②教室環境、言語環境を整える。教師側の察知力・価値観の受容力を高める。	3.3	<12月集計	4 96.9%	<12月集計	◎ 研修を通して人権感覚を磨き、人権尊重を基盤とし、生徒一人一人の存在と多様性が尊重される集団を育む取組を継続するとともに、学校での取組を周知していく。 ◎ 今後も継続して、困難を抱える生徒・保護者への支援を行う取り組みを継続するとともに、学校での取り組みを周知していく。	・人権尊重や困難を抱える生徒・保護者への支援についての肯定的な評価が高かったのは、四中のていねいな取組が理解されているからではないか。 ・登下校で、小中が交流して安全活動を進めていく取組はよい。小学生の特性を理解しながら進めてほしい。 ・中学生は地域の担い手である。災害時に頼りになるための、救命講習や国分寺学の取組をこれからも続けてほしい。 ・生徒が主体の三者面談の取組は素晴らしい。自己点検、自己評価によって、主体的に改善できる取組である。 ・学校の様々な活動は、時代とともに変化している。三者面談のように新たな視点から現代のニーズに合った方法や内容に、勇気をもって変えていくことが求められている。	
	6 支援	様々な困難のある生徒の内面理解を深め、適切な支援を行う。	障害者差別解消法に基づき、困難を抱える生徒・保護者への支援を行う。	①特別支援教育担当教員を中心に関係機関との連携を図り、組織的な相談と支援を行う。 ②支援教室を含む校内組織の改善、教職員・生徒・保護者への啓発活動を実施する。	3.4	<12月集計	4 91.7%	<12月集計	◎ 今後も継続して、困難を抱える生徒・保護者への支援を行う取り組みを継続するとともに、学校での取り組みを周知していく。	・人権尊重や困難を抱える生徒・保護者への支援についての肯定的な評価が高かったのは、四中のていねいな取組が理解されているからではないか。 ・登下校で、小中が交流して安全活動を進めていく取組はよい。小学生の特性を理解しながら進めてほしい。 ・中学生は地域の担い手である。災害時に頼りになるための、救命講習や国分寺学の取組をこれからも続けてほしい。 ・生徒が主体の三者面談の取組は素晴らしい。自己点検、自己評価によって、主体的に改善できる取組である。 ・学校の様々な活動は、時代とともに変化している。三者面談のように新たな視点から現代のニーズに合った方法や内容に、勇気をもって変えていくことが求められている。
	7 安全	生徒の危機管理意識を高めるとともに、自他の命や安全を守れるようにする。	情報通信機器および巨大地震を中心に危機管理意識を高める。	①生徒の主体性を生かした活動を進め、規範意識やネットリテラシー向上を図る。 ②地震発生時の保護者引き渡し、救急救命、薬物乱用防止、SOSの出し方に関する教育を行う。	2.9	<12月集計	3 87.1%	<12月集計	◎ 情報安全教室を実施し、生徒・保護者への啓発を図るとともに、災害時の保護者引き渡し、救急救命、薬物乱用防止、SOSの出し方教育を行うなどの取組を推進する	・人権尊重や困難を抱える生徒・保護者への支援についての肯定的な評価が高かったのは、四中のていねいな取組が理解されているからではないか。 ・登下校で、小中が交流して安全活動を進めていく取組はよい。小学生の特性を理解しながら進めてほしい。 ・中学生は地域の担い手である。災害時に頼りになるための、救命講習や国分寺学の取組をこれからも続けてほしい。 ・生徒が主体の三者面談の取組は素晴らしい。自己点検、自己評価によって、主体的に改善できる取組である。 ・学校の様々な活動は、時代とともに変化している。三者面談のように新たな視点から現代のニーズに合った方法や内容に、勇気をもって変えていくことが求められている。
	8 進路	生徒の自己理解を深め、生き方を考え、主体的に進路選択ができるようにする。	総合的な学習の時間を活用し、3年間系統的に進路指導を行う。	①人間関係形成、社会参画、自己実現、働き方の視点で将来設計能力を育む。 ②1年で職場体験、2年で上級学校体験、3年で進路に関する指導と支援を行う。		<12月集計		<12月集計		・人権尊重や困難を抱える生徒・保護者への支援についての肯定的な評価が高かったのは、四中のていねいな取組が理解されているからではないか。 ・登下校で、小中が交流して安全活動を進めていく取組はよい。小学生の特性を理解しながら進めてほしい。 ・中学生は地域の担い手である。災害時に頼りになるための、救命講習や国分寺学の取組をこれからも続けてほしい。 ・生徒が主体の三者面談の取組は素晴らしい。自己点検、自己評価によって、主体的に改善できる取組である。 ・学校の様々な活動は、時代とともに変化している。三者面談のように新たな視点から現代のニーズに合った方法や内容に、勇気をもって変えていくことが求められている。
特別活動・その他	9 学級	学級活動を通して、生徒全員が大切な居場所であることを実感できるようにする。	仲間を大切にしたい学級づくり(全員が仲間、違いを尊重、礼儀)を推進する。	①教室環境の整備、学習や生活のきまり、仲間を大切にできる学級づくりを行う。 ②誰もがその係や役割において主体的になれるよう支援し、尊重し合えるようにする。	3.3	<12月集計	3 87.3%	<12月集計	◎ 今後も継続して、仲間を大切にしたい学級づくり(全員が仲間、違いを尊重、礼儀)を推進できるようにする。	・コロナ禍を経て、学年の制限をなくした保護者・関係者公開によって、運動会での生徒たちの一生懸命な姿が見られてよかった。 ・四中の行事に対する肯定的な評価は、保護者や生徒の期待値という部分もあると思う。今後も、四響祭(合唱発表会)、校外学習、職場体験、修学旅行などの取組の中で、系統的にねらいを定めた指導を充実して行ってほしい。 ・三者面談のように表現力が身に付くようになれば、生徒会活動等の自治活動もそれに比例して活発になっていくと思う。
	10 行事	行事を通して、連帯感と責任感を高めるとともにより良い校風を育む。	本校の伝統と校風を踏まえ、生徒会組織を活用しながら企画・運営を行う。	①運動会、合唱コンクールの2大行事、校外学習、移動教室、修学旅行を実施する。 ②1年校外学習、2年移動教室、3年修学旅行と系統的にねらいを定め実施する。	3.6	<12月集計	4 93.9%	<12月集計	◎ 今後も、運動会、合唱コンクール、校外学習、移動教室、修学旅行などを実施していくとともに系統的にねらいを定めた指導を充実できるように取り組みを続けていく。	・三者面談のように表現力が身に付くようになれば、生徒会活動等の自治活動もそれに比例して活発になっていくと思う。
	11 自治	自主的・実践的な生徒会活動を通して、学校生活の課題解決を図る。	学校生活や地域社会の課題を自らの課題として捉え、行動できるようにする。	①いじめ防止では未然防止に力を入れ、四つ葉のクローバー運動を主体性をもって進める。 ②ボランティア活動を推奨し、各委員会活動においては校外へ向けた活動を広げる。	2.9	<12月集計	2 67.2%	<12月集計	◎ 今後も自主的・実践的な生徒会活動を継続していくとともに、生徒・保護者に対してのアナウンスをていねいに行い、理解を深めていく。	・今回、評価の低い部分については、学校での取り組みを、ていねいに保護者にも伝えていく必要がある。
	12 特色	生徒、保護者、地域にとって親しめるよう、特色ある学校づくりを推進する。	関係機関や外部講師等の招聘、各活動等から、持続可能な社会を考え、学ぶ。	①生徒の学びを助けるタブレットPCの効果的かつ適正な使用を発展的に進める。 ②地域を生かし、繋がり、地域に役立つ学び・活動を創出し、国分寺学の基礎をつくる。	3.1	<12月集計	3 75.7%	<12月集計	◎SDGs講演会や国分寺学など、四中独自の教育活動を推進・活性化するとともに、生徒・保護者に対してのアナウンスをていねいに行い、理解を深めていく。	・今回、評価の低い部分については、学校での取り組みを、ていねいに保護者にも伝えていく必要がある。

解説

この「自己評価書」は、生徒・保護者対象のアンケート結果を基に、努力指標と成果指標を分析し、改善策を提示したものです。

「努力指標」とは、学校側の努力状況です。4（ほとんど達成した）、3（達成できた部分が多い）、2（達成できない部分が多い）、1（ほとんど達成されていない）となります。

「成果指標」とは、生徒および保護者対象のアンケート結果（ABCD4段階）を総合した評価です。AB合計の%数値が、90%以上で4、70%以上で3、50%以上で2、50%未満で1となります。